

シグマ委員会炉定数グループ拡大幹事会議事録

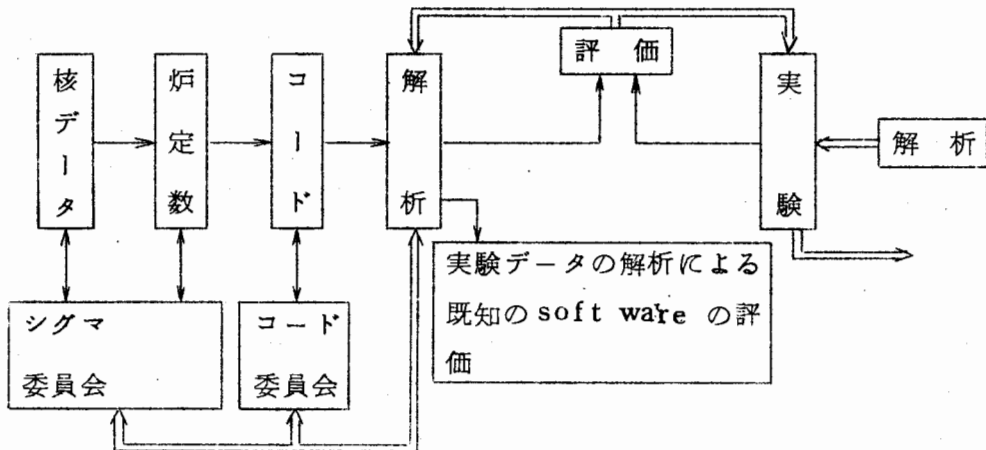
日時： 昭和43年5月23日(木) (1:30~5:30)

場所： 原研東海研第2会議室

出席者： 松延(住友)，松岡(日立)，川島(富士)，岩城(MAPI)，
桂木，石黒(原研)

議 事

1. 前回炉定数グループ幹事会議事録の確認
2. 5月22日動燃との会議(高速炉炉心設計委員会)での当グループの計画に関係のある話題の説明があつた。
 - ◎ 動燃の“高速炉核計算法の開発”グループで原研の核設計研究室で作つた原案を提出し説明したとの報告があつた。
 - ◎ 今年度及び来年度に行われる高速炉関係の Conference について説明も行われた。
 - ◎ MC₂ の整備は予算の範囲内で出来るだけ行い，card は直接送つてもらふことにしているとの報告があつた。
3. Reference data の収集について
 - ◎ reference data の収集について種々の委員会との関係についての基本的考え方として次のようなものが示された。



- ◎ 炉物理委員会の計画との重複について再度議論がなされた。
- ◎ 関係委員会間調整をする機会を作つた方がよいとの意見も出さ

れた。

- ◎ reference data の集収について炉物理委員会に了承を取ることに
なつた。
- ◎ paperごとにするか実験の item ごとにするかについては、paperごとの
方が簡単で良いとの結論が出た。
- ◎ その場合 simple な体系の方が良いとされた。
- ◎ まとめ方としては Geneva 3 rd, conference (ANL-7320) (p/265)
に従う方が良いのではないかとされた。
- ◎ その他に必要な item として次のようなものがあつた方が良いとの意
見が出た。
 - perturbation X-section
 - reaction rate
 - 実験 condition の詳細な記述
 - Doppler or Sodium Void effect 等の実験
 - control rod worth
 - その他 exponential experiment
- ◎ 調べる範囲は U. S. A, U. K., ドイツ及びフランス。
- ◎ 最終的には計算機で整理できるようにした方がよいとの意見が多かつた。
- ◎ さしあたり文献調査を行つて見て必要な item を整理する方がよいとす
る意見が多かつた。
- ◎ 原研(桂木氏)が作業のための案を作ることになつた。

次回幹事会予定 6月19日(水)(炉定数会合 7月3日(水))